

2017年9月29日
東京工芸大学

東京工芸大学 芸術学部教育拠点(キャンパス)の再編計画 2019年4月に厚木・中野の2キャンパス体制を中野キャンパスに一元化 ～1年次生・2年次生の就学地を中野キャンパスに変更～

東京工芸大学(学長:義江 龍一郎 所在地:東京都中野区/神奈川県厚木市、以下本学)では、2017年9月26日開催の第291回理事会において、芸術学部の教育・研究拠点の一元化(以下、キャンパスの一元化)計画を決議いたしましたので、お知らせいたします。

(目的と方向性)

本学中野キャンパスでは、2009年から2014年の6年間にわたり、教育・研究環境の整備、刷新を図り、継続的に芸術学部のキャンパスの一元化に向けて、検討を重ねてまいりました。

このたび、長年の検討の結果、教育環境上、最も望ましい形として、芸術学部の厚木キャンパスの機能を中野キャンパスに移転し、一元化を実現することとなりました。

現在、芸術学部の学生の就学キャンパスは、1・2年次生が厚木キャンパス、3・4年次生が中野キャンパスとしてまいりましたが、2019年4月より1・2年次生の厚木キャンパスでの就学を廃止し、1年次から4年次まですべての学生を中野キャンパスでの就学に変更いたします。就学年次では、2018年4月入学者については、2年次より、また、2019年4月入学者については、同年4月より中野キャンパスでの就学となります。以降、卒業年次に至るまで中野キャンパスが就学キャンパスとなります。

中野キャンパスに教育環境を一元化することで、「メディア芸術のすべてを都心の1キャンパスで学べる唯一無二の大学」となり、まさに本学が目指している「メディア芸術の拠点」の確立をさらに推し進めるものであります。

(経緯と一元化の効果予測)

本学は、1923(大正12)年に当時メディアの最先端であった我が国最初の写真専門学校(小西写真専門学校)として設立されました。以来、今日の芸術学部は、写真技術科や写真工業科、写真印刷科などを母体に、我が国初のアニメーション学科や、東日本初となるマンガ学科を開設するなど、94年間にわたり、ひたすら「メディア芸術・コンテンツ芸術」の発展に先導的役割を果たしてきました。

芸術学部としての正式に発足した1994年(平成6年)以降、今日に至るまで、写真・映像・デザイン・インタラクティブメディア・アニメーション・マンガ・ゲームの7学科と基礎教育にて構成しており、他には類のない「メディア芸術」の教育・研究機関として社会の多方面に貢献させていただきました。

芸術学部編成した当初から、1・2年次生は厚木キャンパスにおいて基礎教育を中心とした教育を、3・4年次生は中野キャンパスにおいて専門教育を中心とした教育を行う体制をとってまいりました。この2つのキャンパスを一元化することにより、芸術学部1年次生から4年次生、並びに大学院芸術学研究所に至るまでメディア芸術に関する教育を一貫して行えることや、学生の学生生活全体の効率性や利便性の向上を図ることも可能となります。

また、中野キャンパスの立地は、メディア芸術に関連する産業界が集中している都心とも近接であり、メディアコンテンツ産業との連携や将来クリエイターを目指す学生にとっては、就職などにも利便性が高いと考えられます。中野キャンパスにおける一貫した教育は、将来、メディア芸術分野での活躍に向けての土台作りになるものと期待もできます。

本学は、このようにメディア芸術に関する教育拠点の集約と集積を通じ、社会への情報発信・貢献をさらに強化してまいりたいと存じます。是非、ご期待ください。

■中野キャンパス所在地

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5

■一元化時期（予定） 2019年4月1日

■年度別・学年別就学キャンパスの推移

厚木：厚木キャンパス 中野：中野キャンパス

	2017年度		2018年度		2019年度～	
	厚木	中野	厚木	中野	厚木	中野
1年次生	○	—	○	—	—	○
2年次生	○	—	○	—	—	○
3年次生	—	○	—	○	—	○
4年次生	—	○	—	○	—	○

■中野キャンパス一元化後の学生数（予測）：約2,700名（芸術学部1年次～4年次及び芸術学研究生）

■中野キャンパス



中野キャンパス 1号館



中野キャンパス 2号館・コート(中庭)



中野キャンパス 3号館



中野キャンパス校舎配置

【本件に関する問い合わせ先】

東京工芸大学 広報課

担当：佐藤・小川

TEL：046-242-9600

mail：pr@office.t-kougei.ac.jp